

## 比良山麓におけるシシ垣遺構の実態と解体要因

- 滋賀県旧志賀町の 9 地区の事例から -

A Study of current condition and demolishment of the Stone-Based Wild Boar Defense Walls Relics at the Foot of Mt. Hira

- Case Study of Nine Districts of Former Shiga-cho, Shiga Prefecture -

落合知帆<sup>1\*</sup>・ワン・ジンイン<sup>2\*\*</sup>  
Chiho Ochiai<sup>1\*</sup>, Jingying Wang<sup>2\*\*</sup>

The purpose of the study is to identify the actual condition of the stone walls called Shishigaki (wild boar defense walls) by investigating the current state and examining the reasons of demolishment. By interpretation of historical documents, interview and on-site measurement surveys were conducted at nine districts located at the foot of Mt. Hira. As a result, it was confirmed that Shishigaki was built in all of the nine districts from the late half of 1700 to 1800 with the permission of the government. It is confirmed that about 4.7 km of Shishigaki relics remain at altitudes of 100 m to 230 m; Shishigaki is found either linear or surrounding types, and the building techniques vary with the locations. The study identified out that not only the residential and road development but some of economic and social activities were the reason of demolishing the Shishigaki relics.

**Keywords:** Wild boar defense walls relics, Stone stacking, Alignment, Conservation

シシ垣遺構、石積み、配置、保全

### 1. はじめに

#### 1.1. 研究の背景と目的

日本の多くの集落では、昔から人々の生活に様々な形で石材が利用され、独自の石文化を形成してきた。石文化というと城壁や棚田の石垣などが想起されるが、ここでは集落を獣害から守るために造られたシシ垣<sup>1)</sup>に着目する。シシ垣とは、かつてイノシシやシカが集落内に入り田畑を荒らすのを防ぐために地域住民によって築かれた垣で、多くは集落と山林の境界線付近にあり、その長さは数百メートルから数キロメートルにもおよぶ。江戸時代以降、耕地開発が進むにつれてイノシシやシカの耕作地への侵入が農作物被害を増大させ、その侵入を防ぐためにシシ垣が作られていった。しかし、高橋はこのような農民が作ったシシ垣のような遺構の多くは等閑視されてきたと指摘し、2005 年施行の文化財保護法の一部改正により、シシ垣も「農林水産業に関する文化的景観」として注目されるようになったことは意義深いと述べている<sup>2)</sup>。

調査対象地である比良山麓地域は、かつて一大採石地として知られ、集落内には地元の石材を用いた堰堤や農業用水路、神社の鳥居や狛犬、石燈籠や石臼などの多様な石造加工物が多数現存し、その一部は郷土史<sup>3)</sup>などで概要が説明されているものの、それらの殆どは人々の生活に根差したものであり、重要文化財などには指定されておらず、地域の石文化としてやその歴史的価値も認識されていない。

また、当地の各公民館には古文書や古地図などの資料が多数保管されているが、かつて集落住民が獣害や災害防止のためにやってきた対策や活動十分に研究されていない。これらシシ垣は、現在でも集落を囲む形で現存する場所も多くあり、集落住民が造成から維持管理まで協力し合い残されてきた。しかし、戦後、地域と自然環境や生業との関係が変化するなかで、次第にその存在は忘れられ、多くが住宅開発や道路の拡張などを理

由に取り壊されてしまった。しかし、シシ垣は、地域の人々が苦難を乗り越えてきた生活の記録であり、「地域の財産」<sup>4)</sup>として人々の認知度を上げ、守っていくべき遺構の一つである。

このことから、本研究は、旧志賀町 17 ケ村のうち、比良山麓地域に位置する 9 ケ村（現在は地区となっている）を対象として、以下の 3 点を目的とした。1) シシ垣に関する絵図を確認しながら各地区におけるシシ垣の配置を明らかにし、2) 現存するシシ垣の配置、形状、石積み方法および現在の状態を比較分析することで、地域に残されたシシ垣遺構の特徴や実態を示す。また、3) これらの解体要因を明らかにする。

#### 1.2. シシ垣の概要と既往研究

シシ垣は、猪垣、鹿垣、猪鹿垣、さらには獅子垣と様々な表記される。その形状は、集落と耕作地を山林と切り離すように境に垣を構築する分界型（長城型）と集落や田畑の周りを囲うように垣を構築する圍繞型（城郭型）の 2 つに大きく分類される<sup>5)</sup>。また、その構造および材質は石垣、土塁、土壁、竹または木柵などがあり、高さは 1m~1.5m ほどである。石垣の場合、その高さは低くなっている。これはイノシシは飛び上がる力が弱く低い垣で十分であったためとされ、鹿対策として、石垣の天端に柵を付けたともいわれている<sup>6)</sup>。写真 1 に山林に残る北小松地区のシシ垣を示す。

日本各地に分布するシシ垣であるが、東日本では特に、長野、山梨、岐阜県に多く分布し、近畿地方では、滋賀、奈良、三重、和歌山県に点在している<sup>4)</sup>。比良山麓地域を対象とした研究として、井上は、旧志賀町の北比良、南比良、大物、荒川、木戸を対象とし、シシ垣の分布と形態に関して古地図を活用し地理的視点から分析を行っている<sup>7)</sup>。また、歴史地理的な視点から明治前期地籍図等を用いて景観や村落空間を分析した研究は、シシ垣にも触れている<sup>8)</sup>。さらに、荒川地区のシシ垣は、獣害対策だけでなく土石流対策を併用しているという特徴から、

\*正会員・京都大学大学院地球環境堂 (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University)

\*\*正会員・香港中文大学建築学院 (School of Architecture, The Chinese University of Hong Kong)

その多面的役割<sup>1)8)</sup>や住民による保全と活用に向けた活動が先行事例において紹介されている<sup>9)</sup>。しかし、比良山麓地域に位置する 9 地区の実測調査を伴う比較研究はこれまで行われていない。

また、江戸時代の記録によれば、村が困窮した理由の一つとしてそこに生息するイノシシやシカによる被害が挙げられており<sup>2)</sup>、比良山系は豊かな自然が残されていることから当時から獣害の被害を受けていたことが分かっている。

## 2. 調査対象地と調査方法

### 2.1 調査対象地

本研究の調査対象地である滋賀県大津市(旧志賀町)の比良山麓地域は、琵琶湖の西岸に位置し、東西 8km、南北 16km と南北に長く、西部には標高 1,000m 以上の急峻な比良の山々が連なる。宅地の位置は、山麓から県道高島大津線(旧西近江路・北国街道)周辺と、湖岸沿いとに分かれ地区により異なる。また、田畑も湖側に広がっている地区と集落から山側の山地に位置する地区がある。図 1 に示すように旧志賀町の比良山麓は、南から八屋戸(北船路・守山)・木戸・荒川・大物・南比良・北比良・南小松・北小松の 9 つの地区(旧村)からなり、地質図を見ると守山と木戸の一部にチャート層があるが、その他は花崗岩層が占めている。このため、かつては全域で石材業が盛んでチャート石は庭石として、花崗岩は住宅の基礎、門柱、敷地の外壁や農地の石積みなどに使用されてきた。

### 2.2 調査方法

調査地におけるシシ垣の築造時期や配置を把握するため、各地区に保管されている区有文書および古地図、さらに町史や既往研究等の資料分析を行った。また、古地図をベースにシシ垣の位置を特定した後、実測調査を 2018 年 7 月から 2021 年 3 月にかけて実施した。シシ垣遺構の配置は GPS を用いて把握し、使用されている石材の種類、形状、現在の保存状態を調査した。加えて、シシ垣の維持管理や取り壊しに関する聞き取り調査を地域住民を対象に行い、シシ垣の破損や撤去の経緯を確認した。

## 3. 旧志賀町のシシ垣遺構

当地域には古文書や古地図が多く残され、各地区で保管されている。その中にはシシ垣の築造や修復に関する資料や、集落の境界とシシ垣の形状を示した古地図がある。表 1 に各地区のシシ垣に関する資料の概要および形態と現存状況を示す。

### 3.1 古文書による分析

シシ垣がいつ頃から造り始められたかは定かでないが、滋賀県では江戸時代中期から後期にかけていくつかの記録が残っている。旧志賀町地域におけるシシ垣に関する記録は、北小松を除き 8 地区で確認した<sup>2)</sup>。その結果、最も古い記録は、守山村の享保 20 年(1735)に書かれた「乍恐口上書」で、シシ垣の建造に関する幕府への依頼文であった。その後、いつシシ垣が造られたのかは不明であるが、寛政 5 年(1793)には、シシ垣の割附帳があり、この時点では既にシシ垣が造られていたことが分かる。一方で松田<sup>9)7)</sup>は、守山と木戸村に「石かけ」と呼ぶシシ垣を連携して修復することを定めた慶長 9 年(1604)の古文



写真 1 北小松地区のシシ垣の様子



図 1 旧志賀地域の地質図<sup>9)</sup>

書があることから 16 世紀には既に築造されていたと考えられるとして記している。1780 年代後半から 1800 年代初めになると南小松の天明 8 年(1788)、北比良村の寛政 3 年(1791)、北船路村の享和元年(1801)、大物村の文化 4 年(1807)、南比良村の文化 10 年(1813)、荒川村の文化 13 年(1816)、木戸村の明治 11 年(1878)とほぼ全ての集落においてシシ垣築造または修復の分担を示す「割合名寄帳」や「割賦帳」が残されている。このことから、江戸時代(1700 年後半から 1800 年代)には各村でシシ垣が造られ、数度にわたり修復が行われていたことが分かる。一方で、これらの資料から地区内のシシ垣は必ずしも一度に築造されものではなく、段階的に築造されていたことが読み取れる。これらの資料は、その多くが志賀町史にも記載があるように、例えば、大物村の資料には、文化 4 年(1807)の「鹿垣割替改帳」に個人の田畑の所持高一石につき二間九分、家役として三間一尺の基準で割り当てていることが記されている<sup>2)</sup>。本調査で文書の詳細調査の対象とした南小松地区においても、同様の記載が確認でき、各村で多少の違いはあるものの、所有する田畑規模に応じて地域住民の築造・修復の負担(距離)の割り当てが示されていることが明らかとなった。図 2 に南小松地区の明治 19 年(1886)のシシ垣に関する古文書の一部事例を示す。

明治 13 年に編纂された「木戸村誌」<sup>10)</sup>には、当時の大字毎の地勢や人口が記されているが、その中に、荒川地区と南比良のシシ垣の様子が以下のように書かれている。「(前略)南ハ中谷山南境ヨリ茅ヶ谷灌漑用水路鹿垣下リテ北國街道(後略)」とあり、灌漑用水とシシ垣があるところを下ると集落のある北

國街道に当たったことが分かる。また、南比良は「(前略) 東に互り猪鹿留垣ニ至りテ南に折レ境ノ表札ニ至リテ (後略)」とあり、すべての地区にシシ垣があったものの、この当時、特にこの 2 地区のシシ垣の認知度が高かったことが推察できる。

さらに、大物地区では明治 34 年 (1901) にシシ垣の移転を促した「鹿垣移転契約證書」、そして明治 41 年 (1908) にはシシ

垣の石が販売されたことを示す「猪鹿垣石買受証」が残されている。このことから明治期にシシ垣の位置 (一部) が変更されたこと、また集落の合意のもとでシシ垣が壊され、使用された石が売却されていたことが 2 通の古文書から読み取れた。これは他地区には無い特徴である。図 3 に 2 通の翻刻を示す。

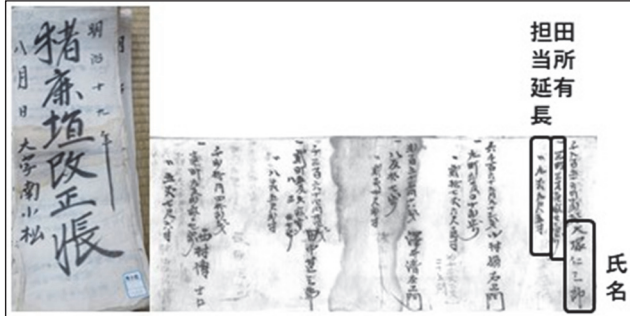


図 2 南小松村のシシ垣に関する古文書 (明治 19 年)

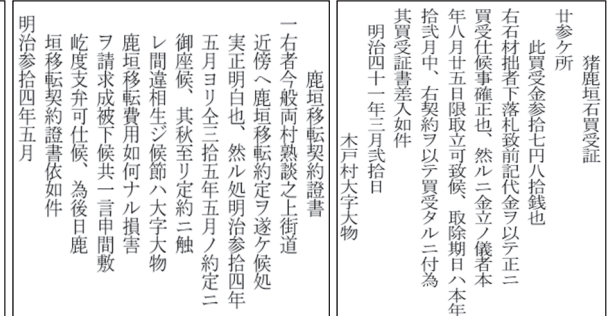


図 3 大物村のシシ垣に関する古文書資料 (翻刻/氏名除く)

表 1 シシ垣に関する資料および形態と現況

| 地区  | 古文書                                                                                                                                         | 古地図に記載                                                                                       | 形態 | 用途          | 現況 (目視および聞き取り)                                                                                                        |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北船路 | 享和元年(1801)「乍恐口上書」他、年未詳の計 3 点                                                                                                                | 明治初期滋賀郡八屋戸村等級縮絵図に記載あり。集落から離れた山地の河川と河川の間を南北に真直ぐな石垣が描かれている。                                    | 分界 | シシ垣         | 目視：現存しない。<br>聞き取り：地元民にも認識なし。山地に向かい農地開拓が進んでおり、その際に取り壊された可能性が高い。                                                        |
| 守山  | 享保 20 年(1735)「乍恐口上書」、寛政 5 年(1793)「鹿垣人々割附帳」の計 2 点                                                                                            | 明治初期守山村絵図に記載あり (図 1 守山)。山林と集落を分けるように南北に真直ぐな石垣が描かれている。                                        | 分界 | シシ垣         | 目視：痕跡が残るのみ。<br>聞き取り：戦後の貧しい時代やそれ以降に村の合意を得ず個人的に販売。                                                                      |
| 木戸  | 明治 11 年(1878)「獅子垣割賦帳」の 1 点                                                                                                                  | 明治初期滋賀郡木戸村等級縮絵図に記載あり。琵琶湖湖畔から集落と山地の田畑を囲む石垣が描かれている。                                            | 圍繞 | シシ垣         | 目視：一部現存。道路整備に伴い金網で囲ったシシ垣が守山地区との境に現存。標高の高い山林部分にも一部現存。                                                                  |
| 荒川  | 文化 13 年(1816)「小川原上ハ水分より海道迄猪垣割合」、文政 3 年(1820)から約 4 年おきまたは各年に記録があり、明治 24 年(1891)まで「小川原猪垣割合帳」または「海道之下猪垣割合帳」などの計 28 点                           | 明治 6 年荒川村地籍図に記載あり。琵琶湖湖畔から集落と田畑を囲むように、山林と集落を分けるように石垣が描かれている。古地図にはシシ垣の長さが記されているが、その材質は示されていない。 | 圍繞 | シシ垣<br>土砂災害 | 目視：一部を除きほぼ現存。集落が位置する県道周辺から山側を囲むシシ垣が木戸地区との境近くまで現存。昭和 10 年の土砂災害で集落北側のシシ垣が破損し流れ出た石を使い修繕、土砂災害への備えも兼ねる。<br>聞き取り：地域住民が維持管理。 |
| 大物  | 文化 4 年(1807)「鹿垣割替改帳」、天保 6 年(1835)「獅子垣相続講帳」、明治 16 年(1883)～明治 29 年の猪鹿垣修繕、明治 34 年(1901)～明治 41 年(1908)猪鹿垣石買受文書他計 12 点                           | 明治 6 年大物村地籍図や明治 9 年近江国滋賀郡大物村総絵図に記載あり。県道の山側の南比良地区の境から集落の山側を囲むように、琵琶湖の湖畔にかけて木柵が描かれている。         | 圍繞 | シシ垣         | 目視：一部現存。山林と集落の境である山側に一部が現存。南側一帯のシシ垣は確認できない。<br>聞き取り：維持管理が行われておらず、ほとんどが崩れて形状を留めていない。                                   |
| 南比良 | 文化 10 年(1813)、天保 6 年(1835)、嘉永元年(1848)、安政 5 年(1858)、文久 2 年(1862)、明治 4 年(1871)の「一札之事」、明治 13 年(1880)から昭和 6 年(1931)の猪鹿垣修復に関する文書他、年不詳 2 点の計 14 点 | 明治初期地券取調総下絵図および南比良村絵図に記載あり (図 1 南比良)。集落は湖畔近くにあるため集落から離れた田畑と山林との境を囲むように、木柵が描かれている。            | 圍繞 | シシ垣         | 目視：一部を除きほぼ現存。山林と田畑の境と大物地区との境近くまで多くが現存。比較的保存状態が良く、高く積み上げられた場所と後年に修復された場所とが確認できる。<br>聞き取り：山林と集落の境に現存。                   |
| 北比良 | 寛政 3 年(1791)、寛政 13 年(1801)の「証文之事」、文政元年(1818)から明治 3 年(1870)のシシ垣修復に関する文書他、年不詳の計 13 点                                                          | 明治 5 年および明治 12 年の北比良村絵図に記載あり。集落は湖畔近くにあるため集落から離れた田畑と山林との境を真直ぐな木柵が描かれている。                      | 分界 | シシ垣         | 目視：一部現存。住宅開発された元々の山林と集落の境に柱型が数本残る。河川周辺の山林と集落の間に一部現存。聞き取り：古老の話をもとに場所を確認。                                               |
| 南小松 | 天明 3 年(1788)「獅子垣割合名寄帳」、明治 19 年(1886)「猪鹿垣改正帳」、昭和 34 年(1959)「猪害防止電気柵負担金」他、年未詳の計 4 点                                                           | 明治初期近江国滋賀郡第十六区南小松村総絵図に記載あり、八幡神社の山側を頂点とし、集落を囲む地区と南北方向に真直ぐ延びる地区あり。木柵や門が描かれている。                 | 分界 | シシ垣         | 目視：一部現存。八幡神社の山側に一部現存。北比良との境に近い南側の山林と田の境に柱型が数本と石垣一部が現存。<br>聞き取り：古老によると子供の頃に周辺で遊んだ記憶はある。                                |
| 北小松 | 未確認 <sup>2)</sup>                                                                                                                           | 未確認 <sup>2)</sup>                                                                            | 分界 | シシ垣         | 目視：一部現存。墓地の山側、寺院背後の山林中、昭和に開発された住宅地の山側等にシシ垣の一部が現存。<br>聞き取り：高圧電線の維持管理のため、周辺の山林・歩道管理が良い。                                 |

### 3.2 古地図による分析

北小松地区を除く 8 地区の古地図を確認した。すべての地区においてシシ垣が描かれている古地図が残っており、主に明治初期当時のシシ垣の様子や配置、集落との関係を知ることができる。一部の古地図は大津歴史博物館が収集した資料を参考にした<sup>11)</sup>。これらの古地図の中には凡例に「鹿木垣」や「鹿石垣」と書かれているものもあり、古地図を読み解くことで当地域には分界型および囲繞型のシシ垣があったことを確認した。その描かれ方は集落によって異なり、木柵、石垣、黒線などが用いられ、集落によっては街道との境界に木戸口が設けられていたり、シシ垣の場所や長さが文字で示されていたりと多様である。当地のシシ垣は木垣と石垣があった<sup>2)</sup>ことが明らかになっているが、現存するのは石垣のみとなっている。

図 4 に事例として守山と南比良地区に保管されている古地図に描かれたシシ垣を示す。守山地区には丸で囲まれた集落の山側にシシ垣がほぼ真つすぐ南北に延びている様子（分界型）が描かれている。北は木戸地区および木戸川の手前、南は北船路との境界近くまで続いている。また、北船路もこの分界型に分類できる。木戸、荒川、大物、南比良、北比良および南小松地区のシシ垣は、集落と山林の境を頂点として、集落を囲むように延びている（囲繞型）。南北は河川が各集落の境であることが多いため、2つの河川の間、東西は集落・田畑と山林の境から北国街道または湖岸まで続いている。

### 4. 古地図に示されたシシ垣と実測調査結果による分析

シシ垣の多くは戦後の混乱期や昭和期の住宅開発や道路拡張によって取り壊されたが、現在でもその一部を各地区で確認することができた。図 5 に旧志賀町の 9 地区のうち、現存を確認できなかった北船路を除く 8 地区における古地図に示されている位置（現存しないもの）と実測調査結果（現存するシシ垣の配置および形態）を示す。また、表 2 に 8 地区のシシ垣の距離、標高、高さ、幅、使用石材とその大きさ、積み方および保存状態を示す。

#### 4.1 長さや配置・標高

古地図に示されていたシシ垣の位置を参考に実測調査を行った結果、8 地区においてシシ垣の一部を確認した。古地図を基に推定される総延長は約 13km であるが、約 4.7km が現存していることが明らかになった。保存状態が良好な北小松で 1,367m（総延長の 60%）、南比良 871m（65%）、荒川 786m（約 39%）、木戸 916m（34%）、一部の石垣を確認できた南小松 305m（22%）、大物 212m（16%）、北比良 138m（15%）、守山 76m（12%）の現存を確認した。ただし、守山に関しては表面に使用される大きめの石材はほとんど無く、内部の割栗石であったと考えられる形跡が確認できる程度であった。一方、シシ垣に関する資料を確認出来ていない北小松においては、分界型のシシ垣が現存することが分かった。加えて、集落単位でシシ垣が築造されている場合と、大物、南比良、北比良のように 3 つの集落のシシ垣がつながり囲繞型を形成している場合があることを確認した。

現存するシシ垣の標高は 100m~230m と、集落や耕地から山地の急斜面までに広く分布していた。特に木戸と北小松はそれ



図 4 古地図に描かれたシシ垣

ぞれ標高 180m~230m と 120m~194m の山地にシシ垣が構築されていた一方、荒川、大物、南小松はそれぞれ標高 99m~128m、124m、112m~126m の集落範囲（居住地または居住地および田畑）を囲むような平地に配置されていたことを明らかにした。

#### 4.2 シシ垣の形態および大きさ

古地図および古文書において木柵があったことが分かっているが、実測調査で確認できたシシ垣はすべて石積で、石壁に分類される。また、場所によっては石柱もみられた<sup>12)</sup>。現存するシシ垣の高さは 0.4m~1.9m と地区や場所によってまちまちであるが、保存状態が良い平均的なシシ垣の高さは約 1.0m~1.5m であった。また、多くのシシ垣は底部（基礎部）が上部（天端部）より広い台形をしており、底部は幅約 1.0m~2.0m、上部は幅約 0.8m~1.5m がであった。側面には大きめの石を配し、その間に小石（割栗石）を詰めていた。一方、南比良では、大きめの石をそのまま積み上げたものも確認できた（図 6）。さらに、北比良と南小松では、この地域の宅地の塀にも使われている石柱（高さ 100cm~140cm）が使われている場所もあった。昭和 9 年に書かれた報告によると、木戸でも石柱によるシシ垣があるとの記載があるが、本調査では見つけることが出来なかった<sup>12)</sup>。

これらのシシ垣の中で特別大きなシシ垣を有する荒川地区は、昭和 10 年の土砂災害を受けシシ垣が破損したため、流れ出た石を活用して再築造されており、獣害対策だけでなく土石流対策を併用するという特徴がある。このことから集落の北側の再築造されたシシ垣は、高いところで 1.9m、幅も底部が 2.0m~2.4m、上部が 2.0m と他地区のシシ垣に比べてより強固な造りとなっていた。聞き取り調査を通じて、他地区のシシ垣についても土砂災害との関連性を確認したが、一部のシシ垣については水路の近くに設置されていることからその可能性を唆する発言もあったが、確証を得ることは出来なかった。

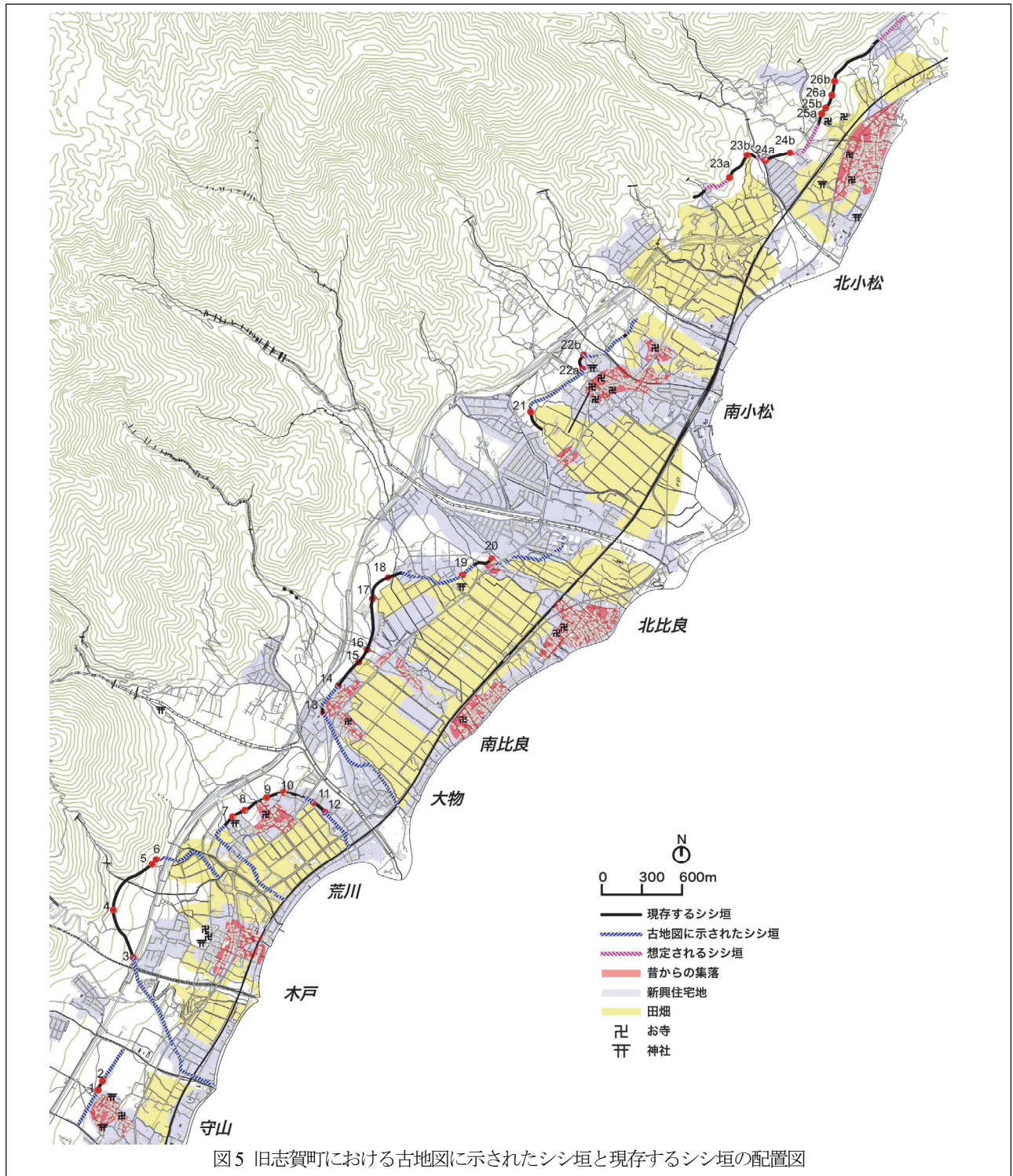
#### 4.3 使用石材の特徴と積み方

シシ垣の材料は石が豊富に産出するところでは現地の石が利用されてきた<sup>9)</sup>ことが知られているように、当地においても守山地区ではチャート石、其他地区では花崗岩が使用されていた。同じ花崗岩の中でも特徴的な白～灰色の石が多く使われる一方、硬く加工が難しい青みがかかった石も多用されていた。

使用されている石の大きさは高さ約 15cm～50cm で、場所によっては 80cm や 100cm の石が使われている。平均的な石の

大きさは 10cm x 15cm や 20cm x 30cm であった。また、その形状は自然の丸みがあるものと、人工的に加工された跡がある四角張ったものの双方が地区や場所によって使用されている。

石積みの工法は野面積みが用いられているが、石組の分類として、谷積、布積、乱積などがある<sup>13)14)</sup>。当地では、その中でも乱積と布積が多く確認できた。同じ集落内でも異なる工法が用いられていた。特に荒川と南比良では、技術が必要な谷積が用いられていた。用いられた石材の形状や積み方は、先にも示



したように各集落住民が分担しており、数メートルおきに積み方が微妙に異なるところを見ると各世帯の技量が反映される形となっていると考えられる。

聞き取り調査によると、シシ垣は草木が生えるのを防ぎ、水はけを良くするために割栗石や砕石を入れた空積になっていてとのことで、シシ垣の多くが空積であることを確認した。

また、地域によっては、石積みのシシ垣に併設する形で落とし穴や慰霊碑などがあるが、当地ではそれらに関して古文書に記載はない。また、今回の目視調査では、多くの場合、シシ垣の周辺では堆積物が多く、また、聞き取り調査でも落とし穴の存在を確認することは出来なかった。

## 5. シシ垣の解体要因

### 5.1 1960 年と 2010 年の地図分析による集落配置とシシ垣

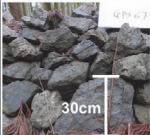
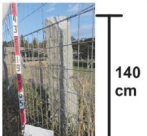
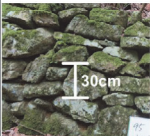
図 7 に明治時代と大きく変化の無かった 1960 年と現状とは

ぼ同じ 2010 年の航空写真による集落配置の変化とシシ垣の配置を示す。白の点線は古地図に示されたシシ垣を、黒点線は村境を示す。いくつかの地区では、新たに建設された国道 161 号線がシシ垣が配置されていた場所に近いまたは交差しているため、別途その配置を示した。ここでは、シシ垣と村境（集落位置）との間に生じたズレの要因を考察する。表 3 にシシ垣の



図 6 大きめの石をそのまま積み上げた事例（南比良）

表 2 各地区における現存するシシ垣の長さ、大きさ、標高および石積の特徴<sup>3)</sup>

| No. | 集落  | 長さ<br>現存/<br>総延長(m)          | 標高<br>(m) | 高さ<br>(m) | 幅・天端<br>(m) | 幅・下部<br>(m) | 石材          | 保存状態* | 谷積                                                                                  | 布積                                                                                   | 乱積                                                                                    | 石柱                                                                                    |  |  |  |  |  |
|-----|-----|------------------------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|
| 1   | 守山  | 76.0/<br>633.4<br>(12.0%)    | 142.4     | 0.4       | 1.2         | 2.0         | チャート        | Ⅳ     | -                                                                                   | -                                                                                    | -                                                                                     | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 2   |     | 142.8                        | 0.5       | 1.2       | 2.0         |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 3   | 木戸  | 915.7/<br>2708.8<br>(33.8%)  | 190.5     | -         | 1.8         | -           | チャート<br>花崗岩 | Ⅳ     | -                                                                                   |   |   | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 4   |     |                              | 230.5     | 1.1       | 1.1         | 0.6         |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 5   |     |                              | 185.0     | -         | 1.6         | 0.6-1.0     |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 6   |     |                              | 182.0     | 1.1       | 0.7         | -           |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 7   | 荒川  | 785.9/<br>2042.6<br>(38.5%)  | 127.3     | 1.2-1.7   | 0.9-1.6     | -           | 花崗岩         | Ⅰ     |  | -                                                                                    |  | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 8   |     |                              | 127.7     | 0.6       | 2.0         | 2.4         |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 9   |     |                              | 121.5     | 1.9       | 1.2-2.0     | 1.7-2.0     |             | Ⅰ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 10  |     |                              | 116.9     | 1.2-1.3   | 2.3         | 2.3         |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 11  |     |                              | 106.9     | 1.4       | 1.1         | 1.1         |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 12  |     |                              | 99.0      | 1.0       | 0.6         | 0.6         |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 13  | 大物  | 221.6/<br>1372.2<br>(16.1%)  | 124.3     | 1.2       | 0.5         | 1.3         | 花崗岩         | Ⅱ     | -                                                                                   |  |  | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 14  |     |                              | 124.6     | 1.5-2.0   | -           | -           |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 15  | 南比良 | 870.9/<br>1341.1<br>(64.9%)  | 121.8     | 1.4-1.5   | 0.7         | 0.7         | 花崗岩         | Ⅲ     |  |  |  | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 16  |     |                              | 124.3     | 0.8       | 0.9         | 0.9         |             | Ⅱ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 17  |     |                              | 128.6     | 1.3-2.0   | 0.8         | 1.5         |             | Ⅱ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 18  |     |                              | 122.2     | 0.5       | 1.2         | 1.2         |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 19  | 北比良 | 138.0/<br>958.5<br>(14.4%)   | 113.6     | -         | -           | -           | 花崗岩         | Ⅳ     | -                                                                                   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 20  |     |                              | 114.3     | 1.0       | 0.9         | 1.0         |             | Ⅱ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 21  | 南小松 | 305.0/<br>1330.1<br>(22.9%)  | 111.6     | -         | -           | -           | 花崗岩         | Ⅳ     | -                                                                                   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 22a |     |                              | 116.1     | 1.4-1.7   | 0.8         | 1.2         |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 22b |     |                              | 125.8     |           |             |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 23a | 北小松 | 1367.8/<br>2291.8<br>(59.7%) | 194       | 0.9-1.6   | 0.7-1.1     | 1.0-1.2     | 花崗岩         | Ⅱ     | -                                                                                   | -                                                                                    |  | -                                                                                     |  |  |  |  |  |
| 23b |     |                              | 155       |           |             |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 24a |     |                              | 130.5     | 0.5-1.4   | 0.7-0.9     | 0.7-0.9     |             | Ⅲ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 24b |     |                              | 120.9     |           |             |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 25a |     |                              | 128.3     | 1.0       | -           | -           |             | Ⅱ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 25b |     |                              | 163.3     |           |             |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 26a |     |                              | 157.4     | 1.6-1.8   | 1.4         | -           |             | Ⅱ     |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |
| 26b |     |                              | 157.1     |           |             |             |             |       |                                                                                     |                                                                                      |                                                                                       |                                                                                       |  |  |  |  |  |

\*保存状態: I=良く保存されている; II=良く残っている; III=一部崩壊している; IV=一部が残るのみ

解体要因を地域別にまとめたものを示す。

### (1) 囲繞型のシシ垣を有する地区の変化

地域開発が始まる 1960 年代以前、シシ垣が集落の境界線であった。しかし、土地開発が進むと、これらの境界の外側に住宅開発が行われ、シシ垣と新たに形成された村の境界とが沿わない形へと変化していった。このため、囲繞型のシシ垣を有していた地区の領域（農地と住居の両方を含む）の拡大が、シシ垣の解体につながった主な理由であることが推察される。特に大物地区の場合、住宅地が地域の自然や地形的環境が考慮されない形で拡大しており、その差がより大きくなっている。

### (2) 分界型のシシ垣を有する地区の変化

シシ垣は、土地開発の影響を部分的に受けているものの、集落の拡大よりも、戦中戦後の混乱期において厳しい生活を迫られた住民の一部がシシ垣に使用されていた石を転売したためにその破壊が進んだことが聞き取り調査でも確認されており、大きな変化は無かったことが分かる。

## 5.2 シシ垣の配置分析

農地や住宅地の拡大によりシシ垣が取り壊され、新たに森林

表 3 シシ垣解体の要因

|        | 守山 | 木戸 | 荒川 | 大物 | 南比良 | 北比良 | 南小松 | 北小松 |
|--------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 所有者    | ○  |    |    |    |     | ○   |     |     |
| バイパス開発 |    | ○  |    |    |     |     |     |     |
| 道路拡張   |    | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   | ○   |     |
| 住宅開発   |    | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 農地開発   |    | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   |     |     |
| その他    | ○  |    |    | ○  |     |     |     |     |

と集落の境界が形成された。その結果、もともと農地に沿っていたシシ垣が、新たに形成された集落エリアに位置したケースが 43.4% に達し、その多く (90.6%) が取り壊されていた。

対照的に、森林の中に残されたシシ垣は全長約 4,163 m に相当 (58%) し高い割合で残っていることが分かった。このように、土地利用の変化に伴い防御柵としての機能の喪失が、シシ垣の解体の主な原因である考えられる。具体的には、木戸村 (915.7m) と北小松村 (1,225.1m) を中心に森林地帯に多くのシシ垣が残っており、かつて広大な農地が森林部分にも広がっ

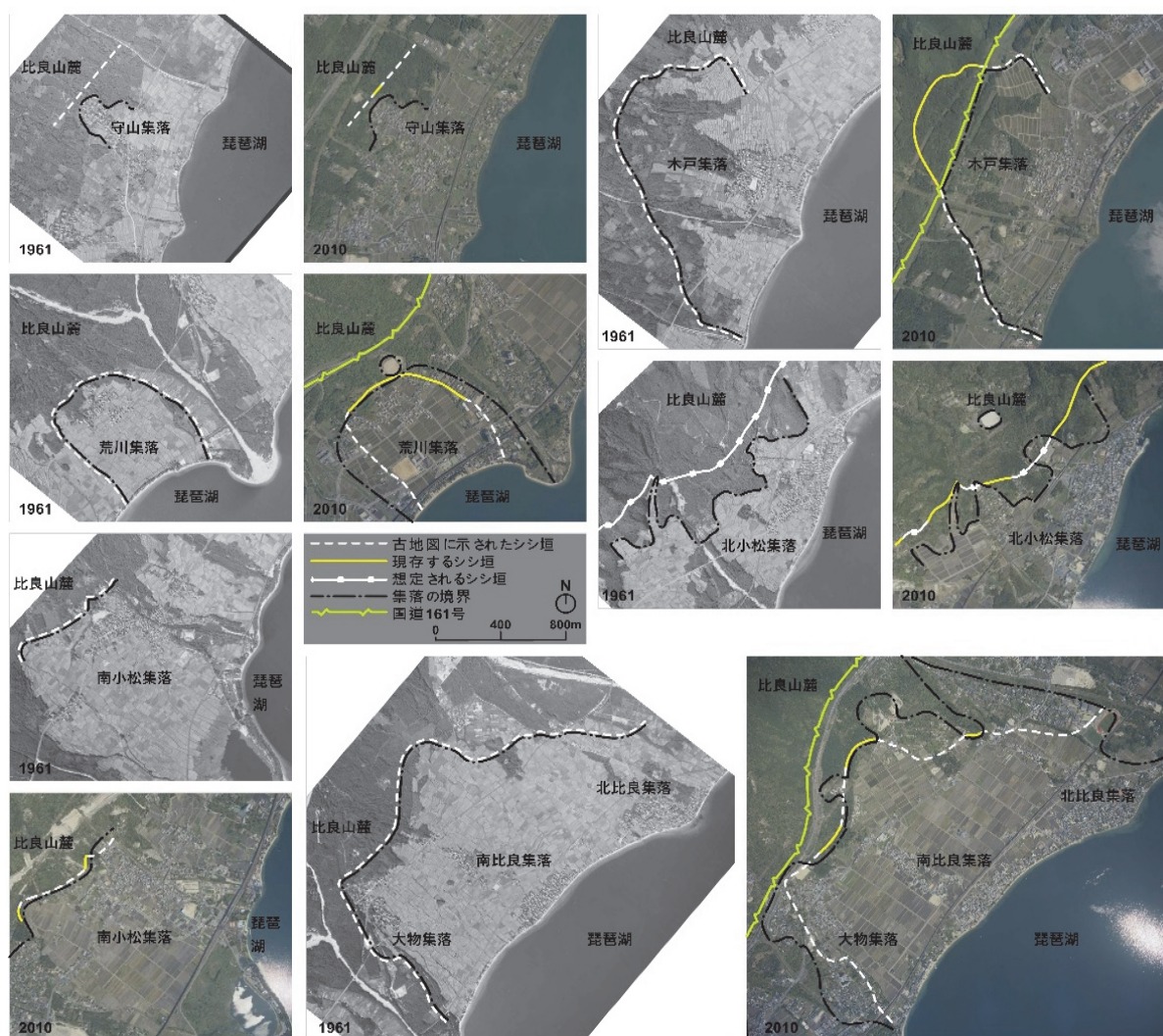


図 7 1960 年と 2010 年の地図分析による集落とシシ垣の配置変化

ていたため、それがシシ垣の解体を免れる要因となっていた。石垣はその技法により、厳しい風雨の中でもその姿を残している。前述したとおり、現在のようにシシ垣の取り壊しが進んだ要因は、土地利用の変化だけでなく、地域の歴史や経済活動も影響していることが明らかとなった。

## 6. まとめ

### 6.1 結論

本研究では、比良山麓に位置する旧志賀町の 9 地区を対象とし、古文書、古地図、実測調査および聞き取り調査から江戸時代に築造されたシシ垣の実態を明らかにした。その結果を以下にまとめて示す。

- 1) 北小松を除く 8 地区において古文書および古地図の調査を行い、各地区にシシ垣の築造に関する古文書が残っていたこと、また古地図にシシ垣が描かれていたことを確認した。これにより、江戸時代 (1700 年後半から 1800 年代) には幕府の許可を得て各集落で段階的に築造されていたこと、分界型と囲繞型があること、いくつかの村が共同して囲繞型を形成している場合があった。
- 2) 実測調査を通じて、古地図を基に推定される総延長の約 13km のうち、約 4.7km が現存していること、標高 100m~230m と集落や耕地から山地の急斜面までに広く分布していること、平均的なシシ垣の高さは 1.0m~1.5m で、底部は幅約 1.0m~2.0m、上部が幅約 0.8m~1.5m の台形をしているが、その大きさは地区や場所によって多様であることが分かった。加えて、石柱が使用されている場合もあった。石材は現地の石が利用されており、守山地区はチャート石、その他の地区では花崗岩が用いられていた。使用されている石材の大きさは約 30cm を中心としながらも 80~100cm など地区と場所によって多様であった。また、石積みの工法は野面積みが用いられているが、その中でも谷積、布積および乱積、さらには空積であることを確認した。
- 3) シシ垣が減少した要因として、昭和 40 年代以降に当地においてシシ垣がある土地が村外の所有者の手に渡ったことや、道路の拡張工事のため取り壊しが進んだことが大きく影響していたことを示した。

### 6.2. 今後の課題と展望

近年、地域に残る生活に関連した遺構の価値を再認識し、文化的または景観的価値を認めようとする動きが高まっている。シシ垣遺構は当地域の石文化そして文化的景観を担う構造物の一つであり、地域コミュニティが獣害に対して講じてきた対策や知恵を知ることができる貴重な地域資産である。本研究では、地域に残る古文書や古地図を確認するとともに、実測調査と聞き取り調査でシシ垣の実態やその変化を明らかにした。また、旧志賀町内全域で調査を実施したことで、同町内でも石材の種類や積み方が多様であること、そしてその配置にも集落の特性が現れていることを確認した。一方、地域の重要な地場産業であった石材産業が縮小する中で、維持管理に関連した技術

の伝承が急務である。保全の第一段階としてはまず、現在放置されているシシ垣の実態を地域住民や行政と共有し、保全への理解や気運を高めることで、シシ垣の維持管理を進めていく必要がある。さらに、今後は、地場石材を利用したこれら遺構の技術的な改修方法を地元石材店や住民間で確立するための仕組みづくりを進めていく。

### <謝辞>

本研究は、人間文化研究機構総合地球環境学研究所のプロジェクト等番号 14200103 の一環として行った。資料提供およびご協力頂いた地域の関係者の皆様に感謝の意を示します。

### 【補注】

- (1) 高橋は著書の『日本のシシ垣』にて、カタカナを用いて「シシ垣」と示している。このため、本論でもカタカナ表記の「シシ垣」を用いることとする。
- (2) 古文書および古地図調査では、大津市歴史博物館が各地区の公民館にて保管されている区有文書の写しを保有しており、これらの資料を基に調査を行った。また、一部の資料は各地区の公民館にて追加調査を行った。しかし、北小松の区有文書は大津市歴史博物館においても保有しておらず、また公民館にても保管しておらず、今回の調査では対象外とした。
- (3) 守山地区では古地図を基にシシ垣遺構の現存を確認したが、面に使われた大きめの石が現に無く、石積みの工法を確認することができなかった。

### 【参考文献】

- 1) 高橋春成編 (2010), 『日本のシシ垣』, 古今書院
- 2) 志賀町史編纂委員会(1999), 『志賀町史第二巻』 滋賀県志賀町
- 3) 岡本大二郎 (1992), 『虫獣除けの原風景』 日本植物防疫協会, pp.147-178
- 4) 矢ヶ崎孝雄 (2001), 「猪垣にみるイノシシとの攻防—近世日本における諸相」, 高橋春成編『イノシシと人間—共に生きる』, 古今書院
- 5) 井上頼綱 (1985), 「シシ垣」についての一考察, 京都学園大学論集 第 14 巻 第 2 号, pp.164-176
- 6) 松田隆典 (1997), 「明治前期における比良山地東麓の村落景観」, 小林健太郎「近畿・中国地方における地籍図類の歴史地理学的活用に関する総合的研究」(研究課題番号 06301086) 平成 6 年度~8 年度科学研究費補助金(基盤研究 A)研究成果報告書, pp.136-145
- 7) 松田隆典 (2000), 「明治前期地籍図類にみる比良山地東麓の村落空間と土砂災害—滋賀郡荒川村の事例を中心として—」 地理図と歴史空間—足利健亮先生追悼論文集—, 足利健亮先生追悼論文集編纂委員会編、大明堂発行, pp.33-46
- 8) 小池則満、橋本操 (2020), 「地域資源としての利活用に向けたシシ垣の多面的役割に関する研究」, 日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol.55 No.3, pp.1181-1188
- 9) 産業技術総合研究所, シームレス地質図  
<https://gbank.gsj.jp/seamless/> (アクセス: 2019 年 10 月)
- 10) 木戸村 (1880), 『木戸村誌』
- 11) 大津歴史博物館 (2017), 「村の古地図—志賀地域を歩く—」
- 12) 齋藤忠 (1934), 猪垣遺蹟考. 「歴史地理」 第六十三巻第四號, p.307-324
- 13) 岡島賢治, 鐺木諒, 飯田俊彰, 安瀬地一作 (2012), 「農地石垣の実態と特徴の現地調査に基づく把握」, 農業農村工学会論文集, No. 278, pp.215-221
- 14) 国土交通省河川局河川環境課 (2006), 「河川の景観形成に資する石積み構造物の整備に関する資料」